

2023 年 11 月 20 日

関係各位

会 社 名 ケアパートナー株式会社
代表者名 代表取締役社長 白井 孝和

東京都立大学 和田一義准教授との共同研究を開始

ケアパートナー株式会社（本社：東京都品川区 代表取締役社長：白井孝和、以下「当社」）は、当社グループホーム（ケアパートナー磯子杉田・グループホーム）にて、東京都立大学・システムデザイン学部機械システム工学科・和田一義准教授（以下「和田准教授」）と連携し、ロボットセラピーの発展を目指した実証研究を開始しました。

「介護ロボットに関する評価研究」をテーマにした産学連携



1. 背景

和田准教授は、長期にわたりロボットセラピーの研究に従事しており、この度、動物型ロボット「パロ」を効果的に使用することを目的としたアプリケーションを開発しました。

ロボットセラピーは、非薬物療法として注目されている療法の一つです。ロボットとの触れ合いにより、気分の向上や、不安、うつ、痛み、孤独感が改善され、特に認知症の方の場合、周辺症状の抑制、緩和されることが報告されています。

一方で当社は、認知症ケアを行う際、認知症を有する方を一人の「人」として尊重し、その人の立場に立って考え、ケアを行う「パーソン・センタードケア」という考え方を取り入れています。

この「パーソン・センタードケア」では、「くつろぎ」「自分らしさ」「携わる」「結びつき・愛着」「共にある」という5つの心理的ニーズを満たすことが認知症ケアにおいて重要であるとされています。

当社は、現状ロボットによるケアを取り入れておりませんが、パーソン・センタードケアの5つの心理的ニーズとロボットセラピーがもたらす効果に繋がりを感じ、今回の研究に参画しました。より良いロボットセラピーの実現に繋がれば、多くの認知症の方のQOL向上に貢献できると考えています。

「パーソン・センタードケア」5つの心理的ニーズ



2. 取り組みの概要

□期間：11月13日(月)から12月13日(水)を予定

□実証研究の方法

- ① パロを用いたロボットセラピーをお客様に提供し、実施後の反応をアプリケーションに記録
- ② アプリケーションを使用した職員によりアプリケーションのユーザビリティを評価
- ③ アプリケーションの改善点を提言

□実施場所：ケアパートナー磯子杉田・グループホーム



《ケアパートナー磯子杉田・グループホーム》



《管理者：浜田 純弥》

《「パロ」について》

アザラシ型メンタルコミットロボット・パロ（写真提供：産総研）

セラピー用ロボットとして、産業技術総合研究所が開発。

2005年の発売以来、世界30か国以上で約8,000体以上が活躍。

認知症の周辺症状を抑える効果が科学的に検証され、米国、欧州等では医療機器として使用されている。

各種センサと人工知能により、本物の動物のように人との触れあいに反応する。

体長：約57cm、体重：約2.5kg



《和田准教授について》

和田一義

東京都立大学システムデザイン学部機械システム工学科 准教授，博士（工学）

20年以上にわたり、パロを用いたロボットセラピーの研究に従事。

主に高齢者を対象に効果的なロボットセラピーを実施する方法について研究。

近年はコンビニエンスストアの自動化に関する研究にも取り組む。



《研究のきっかけ》

パロによるロボットセラピーの効果を最大限発揮させる為には、介護職員の適切な介在とセラピーの記録を取り継続的に改善させることが大切になります。しかしながら、現在は紙による記録手段しかなく、職員の負担を増加させ、分析を困難にしている課題があります。「パロ」の運用方法を研究されてきた和田准教授は、この課題に着目し、記録と分析をしやすくすることを目的としたアプリを開発しました。

《東京都立大学》

学長 大橋 隆哉
所在地 東京都八王子市南大沢1-1
TEL 042-677-1111 (代表)
HP <https://www.tmu.ac.jp/>

《ケアパートナー株式会社》

代表取締役社長 白井 孝和
所在地 東京都品川区南大井6-20-14 イーストスクエア大森 5F
TEL 03-6404-6458 (直通)
HP <http://www.care-partner.com/>

○本件に関するお問い合わせ先 ・ ・ ・ TEL 070-8791-1097 (経営企画室・田中)
